

静岡県漁業協同組合連合会  
1082 静岡市追手町 9-18  
16.2.27 ☎ 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

## 1. 平成14年度漁業就業動向統計年報を作成 65歳以上が35%を占める

農林水産省統計部では、漁業の就業構造・動向を明らかにすることを目的として平成14年度の漁業就業動向統計年報を作成しました。

それによると、漁業就業者数(年間海上作業従事日数30日以上)は24万3,330人(3.6%減)で男性は20万2,890人(前年比3.3%減)、女性は4万440人(同4.6%減)でした。65歳以上の占める割合は34.9%(同1.4%増)で、そのうち男性の占める割合は83.4%でした。主な漁業種別就業者数では船曳・地引網漁業で0.5%、定置網漁業で4.9%増加しているものの、巻網漁業の8.7%減少をはじめ、そのほかの漁業種ではすべて減少しました。

漁業世帯数は17万7,170世帯(同3.3%減)で、そのうち個人漁業経営体は12万9,680世帯(同3.0%減)、漁業従事者世帯は4万8,290世帯で、個人漁業経営体の専業別構成割合は、専業が25.2%(同0.4%増)、自営漁業が主な兼業が26.6%(同1.0%増)、自営漁業が主ではない兼業が21.0%(同1.2%減)となりました。

## 2. 平成15年の家計調査 魚介類の支出額、10万円を割り28年前の水準に

総務省では去る2月10日、全国の全世帯(単身世帯を除く)を対象にした、平成15年(1~12月)の家計調査を発表しました。

それによると、昨年の全国1世帯当りの年間消費支出は前年比1.1%減の363万1,473円となり、このうち食料支出は1.8%減の92万3,295円で6年連続の前年割れとなりました。

食料支出のうち魚介類は5.9%減の9万8,474円で、6年連続で前年を下回り、10万円の大台を割りました。魚介類の支出が10万円を割ったのは昭和50年以来28年ぶりとなりました。

魚介類支出は昭和50年の9万392円から51年に10万968円と10万円台に乗せ、平成4年がピークで14万3,455円となりました。しかし近年は少子高齢化・核家族化で世帯人員が減少にあり、家庭における魚介類の調理機会の減少が囁かれ、調理済み食品の中食、外食の拡大なども背景に魚介類支出は減少傾向にあります。昨年は生鮮魚介類などの購入数量減少に加え、単価安も影響し、食料支出全体と比べて魚介類の落ち込みは大きかった。

魚介類の品目別の支出額をみると、生鮮魚介類、塩干魚介類、魚肉練り製品、その他加工品の合計37品目のうち、前年を上回ったのは生鮮のホタテ、カツオ、タイ、と塩蔵サケの4品目のみで、残りのすべてが減少しました。カツオは近海の好漁で単価は下落したものの数量が11%伸び、支出額は2%増の1,927円でした。

## 3. 「地元農畜水産物」に関するアンケート調査発表

農林漁業金融公庫では、このほど「地元農畜水産物への意識や購入に関するアンケート調査」の結果を発表しました。この調査は「地産地消」や「スローフード」への取り組みが広がる中で、消費者の地元農畜水産物に対する意識や購入実態を把握するため、全人口の年代構成比に応じて、各年代層から無作為に1,250名(回答は791名)に抽出して

調査を行ったものです。

それによると、「地場産」や「地元産」という言葉から受ける印象・イメージとして、「良い」印象を持つのは「鮮度」が52.1%で最も高く、次いで「味」が31.4%、「安全性への信頼度」が29.8%となった一方で、価格は「高い」「やや高い」と回答した人が37.1%で高い印象を持っています。食品を購入する際になるべく地元産を優先的に購入するかでは、「生鮮野菜」が63.0%で最も高く、次いで「コメ」が38.5%、「生鮮魚介」が37.7%、「生鮮肉」が29.7%、「生鮮果物」が29.4%の順になりました。

食の志向別にみると「簡便化志向」「経済性志向」の方は主に「価格」を重視し、「手作り志向」「健康・安全志向」は主に「鮮度」を重視する傾向にあります。

「地産地消」という言葉を知っているかでは、「内容を含めてよく知っていた」は11.8%、「内容を含めてだいたい知っていた」は23.2%で、合わせて35.0%が「知っていた」となっています。反対に、「聞いたことがない」は、51.8%で最も高くなっています。

公庫では調査結果について「地元農畜水産物」の購入割合・頻度を増やすためには、特に国産志向、健康・安全志向、手作り志向のニーズに応えていく 消費者が身近な場所で購入できる環境を整え、地元農畜水産物や地産地消、スローフードに関する情報を提供していくことなどが必要としています。

## 4. 食の安心・安全情報は電子メールで

農林水産省・安全局では、リスクコミュニケーションの推進の一環として、電子メールによる食の安全・安心に関する情報提供(利用は無料)を2月20日から開始しました。

農林水産省ホームページメールマガジンサイト(<http://www.maff.go.jp/mail/index.html>)から登録すれば、農林水産省だけではなく食品安全委員会および厚生労働省の食の安全・安心にかかる情報が毎日(月~金)、メールで提供されます。

提供される情報内容は農林水産省、食品安全委員会、厚生労働省の食の安全・安心に関する意見交換会、セミナーのお知らせなどです。

## 5. 新刊図書紹介「四季の海洋気象がわかる本」

本書は、日本船舶職員養成協会(JEIS)の情報誌「JEIS MATE」に連載された記事を中心にまとめています。

全体を春夏秋冬に分け、四季ごとの海・空の特徴や災害防止の知識を紹介するほか、四季の星座の楽しみ方、生物のふれあい、観測航海記なども読み物として楽しめる一冊となっています。 定価：1,680円(税込、送料340円) 問合せ先：成山堂書店 〒160-0012東京都新宿区南元町4-51 TEL:03-3357-5861 FAX:03-3357-5867

## 6. 諸会議日程(3月2日(火)~3月15日(月))

- 既報分省略 -

3月3日(水) 県桜えび漁業組合船長部会 = 通常総会 (熱海)

3月9日(火) 県超短波漁業無線協会 = 通常総会 (伊豆長岡)

3月11日(木) 県漁連 = 指導対策委員会幹事会 (県水産会館)

3月11日(木)・12日(金) 県しらす船曳網漁業組合 = しらす漁海況予察研修会

(11日 = 福田町・浜名漁協、12日 = 吉田町・静岡漁協)

3月12日(金) JF静岡女性連 = 第47回県漁協女性部大会 (あざれあ)